

HIV感染者等保健福祉相談事業

エイズ中核相談事業活用ガイド

HIV陽性者のメンタルヘルス増進のために



I 中核相談事業カウンセリングについて



1. エイズ中核相談事業*では

カウンセリングを通して利用者(患者・家族・パートナー)の心理支援を行っています。カウンセリングは、利用者が安心して話せる場です。カウンセラーはじっくりお話を伺います。

*2007年より全国のエイズ中核拠点病院に設置された HIV 感染者等保健福祉相談事業です。臨床心理士などのカウンセラーが週1回程度勤務しカウンセリングなどの業務を行います。

カウンセリングでは、HIV感染症を含めた生活全般の悩みや不安、気になる事を伺います。利用者の気持ちに寄り添い、利用者自身で自分の考えや気持ちを整理してご自身の状況を理解し、現実的に歩んでいけるようお手伝いします。そのための情報提供も行います。自己理解を進め成長し自立していくことを支援するのがカウンセリングです。

利用者の声

- 家族にも誰にも言えなかったことを話せる場があったのでよかったです。
- 医師に話しくいことを話せました。
- 病気やセクシュアリティのことなど、よそで話しくいので聞いてくれて嬉しかったです。
- 家族の話聞いてくれて助かりました。

スタッフの声

- 利用者に気持ちが落ち着いたと言われました。
- 週1回でもその日はカウンセラーが一日居てくれるので相談につなげやすいです。
- 病気や服薬への抵抗感が薄れた例が多いです。
- 心配事に対して具体的な情報を伝えたことで不安が軽減できました。
- 医師の前では「服薬しています」と言っていた利用者が、カウンセリングを開始したら「実は飲むのが大変で…」と打ち明けたことがありました。

★運用ポイント★

- 安心してお話を伺うには
- プライバシーの守れる個室が必要です。
- 対象は家族、パートナー等も含まれています。

★データ★

- スタッフの95%がカウンセリングの効果を理解しています。
- 調査対象の中核拠点病院ですべて面接に個室を使用しています。
- 中核カウンセラーの半数は家族・パートナーとのカウンセリングを行っています。

※本活用ガイドのデータは下記の厚労科研 2013 におけるメールアンケート、電話インタビューによるものです。

多くの方が
プライバシーを
心配されます

家族の声

- どう接したらよいか困っていたので、話せる場があったのでよかったです。

この活用ガイドは厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「HIV感染症の医療体制の整備に関する研究」班(研究代表者/伊藤俊広)分担研究「HIV医療包括ケア体制の整備—カウンセラーの立場から—」(研究分担者/山中京子)平成25年度「研究2中核拠点病院におけるカウンセリング導入の促進に関する研究」(研究協力者代表/高田知恵子)に基づき作成されました。

Ⅲ 勤務体系など事務に係ることについて



1. 所属部署での位置付け

カウンセラーの所属部署や位置付けがはっきりすると、活動しやすくなります

カウンセラーの声

- 所属部署がはっきりしてから、郵便物が確実に届くようになりました。
- 他病院から利用者の紹介を受けた時も連絡がスムーズに行きました。



★運用ポイント★

- カウンセラーの所属部署を決めておかれると、紹介や連絡に混乱が生じません。
- エイズ予防財団・学会・ブロック拠点病院などからの書類が、相談員に確実に届くと業務が円滑に進みます。
- エイズ予防財団との連絡を行う事務担当を決めていただくと連絡がスムーズにいきます。

★データ★

- 郵便物などの受け取りはスムーズに行われています。(85%)

2. 相談事業予算について

中核相談事業は利用者への心理的支援を最大限行うための事業です

企画会議は、エイズ診療における相談事業の目的・意義を、スタッフ間で確認する場でもあります。

カウンセラーの声

- 利用者への心理的支援が最大限に行えるように、予算を有効に使う努力をしています。利用者との面接を確保しつつ、年1回のエイズ予防財団研修会費用の工面ができるように相談しています。

★運用ポイント★

- 予算額に基づいて年間の企画会議を行うと、年間のカウンセリング回数、事務手続き予算の執行がスムーズになります。
- 企画会議には、チームメンバーの医師、看護師、カウンセラーらに加えて事務担当者にも入っていただくと、事務手続きや予算のやりとりがスムーズになります。
- 勤務時間外(同日も含む)にカンファレンスなどがあった場合は、業務としてカウントして支払いの対象になります。

★データ★

- 57%のカウンセラーが企画会議に参加しています。

中核相談カウンセラーはこれからもチーム医療の一員として、利用者のより良い生活の実現に向け、医療スタッフの皆様と協働していきたくと考えております。

研究協力者：高田知恵子(秋田大学) 嶋 篤子(滋賀医科大学医学部附属病院)
 長浦 由紀(長崎大学病院) 平塚 信子(滋賀県)
 加藤 朋子(金沢星稜大学) 梅沢有美子(福井大学)
 塚本 拓也(仙台医療センター) 高橋 義博(大館市立総合病院)

連絡先：高田知恵子 秋田大学教育文化学部 takata@ed.akita-u.ac.jp
 発行：2014年11月

4. 各制度カウンセラーとの連携

中核相談事業のカウンセラーは派遣カウンセラーや院内カウンセラーなどと連携しています



HIVカウンセリングは、ブロック拠点病院カウンセラー、自治体派遣カウンセラー、中核相談事業カウンセラーと病院内の精神科などに所属するカウンセラーが行っています。利用者の支援がスムーズに行くよう相互に連絡を取ることができます。

各制度のカウンセラーが連携することで利用者支援の質が向上します

★運用ポイント★

- 派遣カウンセラー、院内カウンセラーと情報交換し、連携しています。

カウンセラーの声

- カウンセリングは中核カウンセラーが、心理検査は院内カウンセラーが実施することで、業務分担し、連携したことがあります。
- ブロックカウンセラーからのアドバイスなど、バックアップ体制があります。

利用者の声

- 前の病院では派遣カウンセラーに会ってましたが、転居する時に中核相談のカウンセラーを紹介してもらいました。知らない土地の病院でもカウンセリングが継続できて安心でした。

5. 研修会への参加など研鑽

利用者がどの地域でも質の高い心理支援を受けられるようカウンセラーは研鑽しています

カウンセラーは研修会参加・学会発表・調査研究に携わることもあります。カウンセラーの業務報告・研究成果をお知らせする機会があると、最新の状況やカウンセラーの仕事をよりよくご理解いただけ、相互理解につながり、HIV診療やチーム医療の推進に貢献できます。

カウンセラーの声

- 院内で事例発表をしたところ、面接経過による利用者のごころの変化が良く分かったと、スタッフに言われました。



★運用ポイント★

- 施設などで発表する機会(院内カンファレンス・症例検討会・院内研修など)をご紹介ください。協力スタッフとして貢献できます。
- エイズ予防財団中核相談研修会に参加し、HIV医療・福祉体制の最新情報を得ています。中核研修会では事例発表や活動報告を行ったり、講師を務めたりすることもあります。
- 日本エイズ学会、日本心理臨床学会などで発表しています。

HIVカウンセリング立ち上げと展開の工夫

A病院では、HIVカウンセリングの受け入れが初めてでした。担当医の計らいでHIVカウンセラーの顔見せとしてワークショップを企画し、スタッフにロールプレイを体験して頂きました。これでスタッフとカウンセラーの距離が縮まりました。ある時、対応に困難のあった入院事例について、医師、看護師、カウンセラーでミーティングを重ねました。余裕ある対応が可能になり、利用者-スタッフ関係がスムーズになりました。課題を共有して一緒に考えていくことで、チームの仲間意識が高まりました。

2. カウンセリングの勧め方

カウンセリングが利用できることを、利用者を知っていただくことが第一歩です。カウンセリングは利用者の治療や生活の節目にお勧めすると役立ちます。



カウンセリングは利用者の主体性を尊重し支援するためのものです。カウンセリングを勧めて、利用者には“精神が弱いと思われる？”“精神疾患なのか？”という誤解や不安が生じないように、適切に情報を伝えたいものです。また、利用者の生活の節目にカウンセリングを勧めると、利用者も利用しやすくなり、良かったと感じていただけることが多いです。

★運用ポイント★

- 初診時に「カウンセリングが利用できます」とお伝えください。
- カウンセラーをチームの一員としてご紹介ください。
- 紹介する際は、カウンセラー、相談員など、利用者に分かりやすい名称で伝えてください。
- カウンセリングを紹介する際、リーフレットも役立ちます。

★データ★

- スタッフが利用者にカウンセラーをつないでいる割合は95%です。
- リーフレットを活用している病院は67%です。

利用者とカウンセラーが顔合わせをしておくと、今すぐ必要がなくても、あとで安心して利用していただけます。

スタッフの声

- こんな風に伝えています。「カウンセラーがいるので、会ってみたら？」「一度会っておきませんか？」

利用者の声

- 躊躇していたけど、カウンセリングをもっと早く受けていれば良かったと思いました。

こんな時はこころが動き、治療への態度も揺れ動く時です。長期療養のため継続的な支援が必要です。

利用者の声

- 服薬開始と言われ落ち込んでいましたが、カウンセリングで不安を聞いてもらい、吐き出せたら前向きな気持ちになれ、薬を飲む生活もイメージできました。HIVやセクシュアリティのことも含めて話せるので安心です。

★運用ポイント★

- こんな時にカウンセリングの紹介をご検討下さい。
- 治療の節目：初診、服薬開始、服薬変更、転院、入院/退院時、主治医変更など
- ライフイベント：入学、就職、転職、失職、恋愛、結婚、家族との別れ、転居など
- 実在的話題：自分の人生、自分の将来、死後、生きる意味、セクシュアリティ、家族などについて考えるとき

3. 予約窓口

カウンセリングに関する窓口となるスタッフに、面接予約・日程調整などの連絡がいくとスムーズな相談業務につながります。

カウンセラーは週1回の勤務なのでスムーズな連絡のためにご協力ください。

カウンセラーの声

- 限られた勤務時間なので日頃からスタッフとコミュニケーションを取るようにしています。

★運用ポイント★

- 予約窓口担当を決めていただくと利用者がカウンセリングにつながりやすくなります。
- 予約窓口は、医師や看護師、ケースワーカーが担当されています。

★データ★

- 予約窓口スタッフは医師 43%、ナース 67%です。(複数回答)

II 医療スタッフとの連携 カウンセラーの役割について

1. 臨床心理学的見立て

カウンセラーは臨床心理学見立てを行い、利用者についての理解を深めます。利用者自身の気持ちや、ものの見方に働きかけ、チームスタッフの利用者理解を促進します。



お元気に見える利用者でも、カウンセラーとつながることで表面化していない問題が把握され、その予防が可能になることがあります。

★運用ポイント★

- 利用者との関係で行きづまりを感じたとき、カウンセラーに声をかけてみてください。

利用者の状況変化に応じて、情報や意見を交換することで多面的な利用者支援が行えます。

スタッフの声

- スタッフを振り回す利用者に困っていましたが、カウンセラーに見立てと対応のポイントをアドバイスされて、納得がきました。
- 自殺念慮のサインが出ていたと指摘されて、入院中留意することができました。
- 薬の説明をするときに図で示すとわかりやすくとアドバイスを受け、助かりました。

カウンセラーの声

- カンファレンスでスタッフに意見を求められ、心理学的な見方を伝えています。利用者理解、見立てが役立っているようです。

2. 他科との連携

カウンセラーの仲介で精神科など他科受診に抵抗のある利用者への紹介がスムーズになります。

他科受診に抵抗のある利用者へ、受診の動機付けとタイミングを見計らいながらお話しするなど、カウンセラーがお役に立てることがあります。

★運用ポイント★

- 精神科、心療内科など他科受診が必要な時にカウンセラーにもご相談ください。
- 利用者が安心して他科につながる支援やその後のフォローを行います。

利用者の声

- ただ、「精神科を受診を」と伝えるだけではなく、メンタル面を担っているカウンセラーが他のスタッフと協力してくれて、不安なく受診できてよかったです。

スタッフの声

- 医師が気付かないような精神科受診の必要性をカウンセラーから聞いて、助かりました。
- 利用者を見る視点が広がりました。



HIVカウンセリング立ち上げと展開の工夫

カウンセラーはまず担当医と話し合い、病院・医師のニーズを確認しました。事業スタート後は、院内研修会で発表してもらい、その時にカウンセリングのPRをしました。カンファレンスでスタッフとの顔合わせが進み、利用者対応の連携が促進されました。動揺していた利用者がカウンセリング後に安定したことで、その効果を実感してもらえました。新規の利用者にはカウンセリングを紹介させてもらっています。面接の内容や対応については分かりやすいカルテ書きを心がけています。また研修報告や資料配布、予防活動などのアイデアも報告して、HIVカウンセリングについてスタッフの理解を得るようにしています。

3. チーム医療の一員として

カウンセラーは、チームの一員としてスタッフの皆さまと情報を共有し、利用者への支援やチームへの貢献を強めたいと考えています。



カウンセラーはチームの治療方針・利用者の状態などを十分理解した上で、より適切な面接を行いたいと考えています。また、カウンセリングの様子をスタッフにお知らせし、それぞれのスタッフが役割を担いながら、自分の専門性を十分発揮できるよう貢献したいと考えています。

★運用ポイント★

- カウンセラーをスタッフ(担当医師、専門看護師、薬剤師、ケースワーカー、事務、相談業務窓口)に紹介していただくことでチーム医療がスムーズに進みます。
- カウンセラーもカンファレンスに参加すると、利用者理解と支援を臨床心理学の視点でお伝えすることができます。
- 院内PHSをご用意いただけるとスタッフとスムーズな連絡がとれ、より迅速な業務につながります。
- カウンセラーが、カルテを閲覧したり記載することで、利用者のカウンセリングの様子を共有できます。

★データ★

- カウンセラーの60%がカンファレンスに参加しています。
- カウンセラーの81%はカルテ閲覧記載をしています。
- 連絡にカウンセラーの90%はメール、67%はPHSを利用しています。

チーム医療で、顔の見えるつながりができると、相互コミュニケーションが深まり、利用者への理解・支援につながります。

それぞれの職種の間わりが明確になると、より利用者対応の連携がスムーズになります。

利用者の声

- いろんなスタッフが関わってくれて、自分の成長を実感できました。

カウンセラーの声

- 治療状況や身体状況を理解できると、カウンセラーもチームの一員として利用者支援をより充実させることができます。

スタッフの声

- 発達障がいのある利用者に対し、チームの間わりができたことで、利用者の適応度が上がりました。
- カウンセラーが利用者の話をじっくり聞いてくれるので、自分の職務に専念できてありがたいです。
- カルテに面接内容が書かれているので利用者の様子がよくわかります。
- カウンセラーと顔の見える関係できていたので、利用者をスムーズにつなげることができました。

中核拠点病院一覧

●は相談事業実施病院

北海道 釧路労災病院	●東京慈恵会医科大学附属病院 ●都立駒込病院 ●慶應義塾大学病院 ●横浜市立大学附属病院 ●山梨県立中央病院 ●長野県立須坂病院 ●新潟大学医学部総合病院	●国立病院機構名古屋医療センター ●三重大学医学部附属病院 ●徳島大学病院 ●滋賀医科大学医学部附属病院 ●京都大学医学部附属病院 ●大阪市立総合医療センター ●高知大学医学部附属病院	●国立病院機構門田医療センター ●山口大学医学部附属病院 ●徳島大学病院 ●徳島県立中央病院 ●香川大学医学部附属病院 ●愛媛大学医学部附属病院 ●高知大学医学部附属病院
東北 青森県立中央病院 ●岩手医科大学附属病院 ●国立病院機構仙台医療センター ●大館市立総合病院 ●山形県立中央病院 ●福島県立医科大学附属病院	●富山県立中央病院 ●石川県立中央病院 ●福井大学医学部附属病院	●北陸 ●富山県立中央病院 ●石川県立中央病院 ●福井大学医学部附属病院	●北陸 ●産業医科大学病院 ●佐賀大学医学部附属病院 ●長崎大学病院 ●熊本大学医学部附属病院 ●大分大学医学部附属病院 ●宮崎県立宮崎病院 ●鹿児島大学病院 ●琉球大学医学部附属病院
関東甲信越 筑波大学附属病院 ●栃木県済生会宇都宮病院 ●獨協医科大学病院 ●自治医科大学附属病院 ●群馬大学医学部附属病院 ●国立病院機構東埼玉病院 ●千葉大学医学部附属病院	●岐阜大学医学部附属病院 ●沼津市立病院 ●静岡市立静岡病院 ●浜松医療センター ●名古屋大学医学部附属病院	●東海 ●岐阜大学医学部附属病院 ●沼津市立病院 ●静岡市立静岡病院 ●浜松医療センター ●名古屋大学医学部附属病院	●中四国 ●鳥取大学医学部附属病院 ●島根大学医学部附属病院 ●川崎医科大学附属病院 ●広島市立広島市民病院 ●広島県立広島病院

エイズ中核拠点病院の詳細は、<http://hiv-hospital.jp/area/?category=chukaku> を参照。